

ポスター報告 9

時岡 新 金城学院大学

河口 尚子 立命館大学

伊藤 葉子 中京大学

#報告題目 発達障害の女性の「生きづらさ」—とくにジェンダー規範をめぐって

#報告キーワード 発達障害 障害女性 生きづらさ

#報告要旨

【1】 先行研究

近年、発達障害の女性も友人関係、就職、恋愛・性でのトラブルなどからうつ・体調不良など多くの「生きづらさ」をかかえていることがいくつかの文献でも指摘されるようになってきた（宮尾、シャナ・ニコルズ、ルディ・シモンなど）。女性の発達障害は男性と比べて“問題行動”が目立たないために注目の度合いが小さいと言われ、生きづらさは“障害特性”によるものと一元的にとらえられてきた。

【2】 目的

本報告の目的は、障害女性が経験する「生きづらさ」に関する具体的な事例から、とくに発達障害の女性に焦点化して、複合差別の視点、性別と障害、その他の要素がどのように交差しているのかを考察する。

【3】 方法

個人の生活史を軸として「生きられた」経験を聴きとる生活史法を採用。あらかじめ「差別」の経験を特定し、それに当てはまる差別事例を収集するというアプローチもとらない。重視するのは障害女性にとって「生きづらさ」を感じさせた出来事、およびそれへの意味づけである。これにより彼女らが捉える問題のみならず、さまざまに異なる状況に置かれた障害女性たちが抱える差異や独自性、矛盾をあぶり出すことが可能になる。

【4】 発達障害の女性に対するインタビュー結果と考察

「目立たなさ」と調査

・インタビュー調査を引き受けるまでのハードルがあることが判明。人によっては、その場で急な質問のない構造化インタビューがよい、「行かなきゃ」というプレッシャーを感じながらの参加。

ライフコース上のステージとジェンダー役割規範

・ いじめ・孤立

生きづらさの中心に学校・職場でのいじめ・孤立などの周囲との関係性。“ガールズトーク”についていけないなど。

・ 職を転々とし収入が安定しないことの困難

・ 他と同じようにできないことに悩んでいた人が多く、発達障害の診断がついたことには安堵・肯定的。

・ 職場での女性に対する慣行への違和感

いでたち：感覚過敏がある女性にとっては、化粧（匂い・肌触りなど）、服装（肌触りが気になる、ストッキングなど）、靴（パンプスなど）に苦痛を感じる。

気くばり：事務職など女性に多い職種では、お茶くみをはじめ、気くばりを求められることでの困難。

・ 家事の困難

料理（たくさんの情報をまとめあげなくてはいけない）、整理整頓

・ 恋愛／結婚の困難

恋愛感情がわからない。結婚はすべきものと考え結婚した人も。

・ セクハラ／性被害

相手の言葉どおりに受けとめ、セクハラだと気づかない。

→ 障害特性のみではなく、ライフコース上の各ステージでの「女性らしさ」（ジェンダー規範）と結びついた生きづらさが語られる ⇒ 差別現象への交差性アプローチ

変化・エンパワメントについて

・ 発達障害が社会的認知をされ、法律ができたことの影響が大きい。

・ 自助グループの役割の大きさ

倫理規定：

本報告は「障害女性をめぐる差別構造への「交差性」概念を用いたアプローチ」（代表者：土屋葉、16K04114）の成果の一部である。愛知大学・人を対象とする研究に関する倫理審査委員会の承認（人倫承 2016-04）を得て調査活動を行っている。調査実施の際には、途中で中止することも可能であること、調査結果はすべて関係者のみが扱い、公表の際には個人

特定ができないように配慮・処理すること等を説明し、同意書に署名をいただいている。

文献：

綾屋紗月編著，2018，『ソーシャル・マジョリティ研究 コミュニケーション学の共同創造』、金子書房。

川上ちひろ，2015，『自閉スペクトラム症のある子への性と関係性の教育』、金子書房

シャナ・ニコルズ他著，2010，『自閉症スペクトラムの少女が大人になるまで－専門家が知っておくべきこと』，東京書籍。

服巻智子編著，2008，『当事者が語る異文化としてのアスペルガー』，クリエイツかもがわ。

宮尾益知，2017，『ASD（アスペルガー症候群）、ADHD、LD 女性の発達障害 女性の悩みと問題行動をサポートする本』，河出書房新社。

ルディ・シモン，2011，『アスパーガールーアスペルガーの女性に力を』，スペクトラム出版。

DPI 女性障害者ネットワーク編，2012，『障害のある女性の生活の困難 人生の中で出会う複合的な生きにくさとは 複合差別実態報告書』。